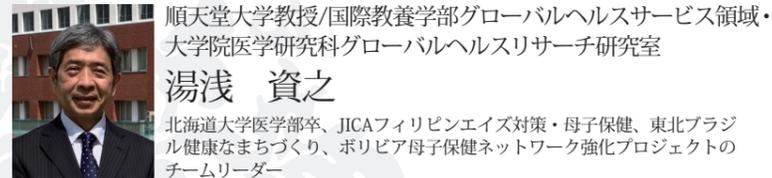


# グローバルヘルスの新たなフィールド 『高齢化』に挑戦する順天堂大学・大学院



順天堂大学教授/国際教養学部グローバルヘルスサービス領域・  
大学院医学研究科グローバルヘルスリサーチ研究室

湯浅 資之

北海道大学医学部卒、JICAフィリピンエイズ対策・母子保健、東北ラジ  
ル健康なまちづくり、ボリビア母子保健ネットワーク強化プロジェクトの  
チームリーダー

## 大学に奉職して感じたこと

学生「将来、世界を舞台にグローバルヘルスの専門家として仕事をしたいのですが、何を学んだら良いのでしょうか。」私「君は何に最も関心があるのですか？」学生「まだ自分の専門性が分かりません。」私「それでは、君が世界の第一線で活躍するであろう20年後、世界は君に何を求めているだろうか？それに答える専門領域を考えてみてはどうだろうか。」

学生相談の折に、私はしばしば上記の質問を投げかけます。もちろん、自分が興味のある専門分野を選択すべきことは言うまでもありません。しかし、同時に未来の世界が何を若人らに期待するようになるのかという点も考えておくべきであると思います。20年後の世界においてグローバルヘルスの大きな問題とは何なのでしょうか…

私が最初に国際保健に足を踏み入れたのがJICA長期専門家としてフィリピンのエイズ対策プロジェクトでした。保健省に所属し、HIV感染予防の国家政策



▲研究室の研究教育拠点がある静岡県伊豆の国市はNHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』の舞台となった富士山が望める風光明媚な土地

立案に携わりました。次は同じフィリピンの母子保健プロジェクトでした。母と子の健康支援のシステム強化が目的でした。その後も南米を中心に母子保健の専門家として多くのプロジェクトに従事してきました。

15年前に私は現場の専門家から大学の教員に転職し、若き学生にグローバルヘルスを教えるようになりました。私は彼らに一体何を教え、何を伝えるべきなのかを考える立場になったのです。同時に私は前述のような学生相談を多く受けるようにもなりました。そこで、学生が40～50歳代になり責任ある立場で社会に貢献する頃、グローバルヘルスの世界では何が大きな問題になっているのかを考えてみました。将来の課題を学ぶことが、今の学生には必要なのではないかと思ったからです。その結果、そのひとつは高齢化であると思いました。そして私の専門性もこの10年をかけて感染症・母子保健から高齢化対策へと舵を切ることになりました。

## 本学で何を学べるのか

順天堂大学は今年で設立185年目になる日本最古の西洋医学の大学です。順天堂と言えば医学部とスポーツ健康学部とが有名ですが、現在9学部、5大学院、6付属病院を擁する「健康総合大学・大学院」です。国際保健・グローバルヘルスは医学部、看護系2学部でも学ぶことはできますが、本学がユニークであるのは「国際教養学部」に学部レベルでグ

ローバルヘルスを専門に学べる全国唯一の「グローバルヘルスサービス領域」があることです。また「大学院医学研究科グローバルヘルスリサーチ研究室」に所属するグローバルヘルス専科には修士課程（2年間で公衆衛生修士 MPH が取得可能）と博士課程（4年間で博士（医学）が取得可能）があります。大学院は社会人へも大きく門戸を開放しており、遠隔学習も充実しています。私学でありながら国立大学と同等の学費で修学もできます。

国際教養学部では、2年間の基礎科目には「健康と栄養・運動」や「生きている仕組み」など生物学・医学の基本を学ぶ科目が充実しています。3年次になるとグローバルヘルスサービス領域を専攻すると、「開発途上国のグローバルヘルス」や「保健医療システム」「ヘルスプロモーション」など専門科目を選択することができます。私が担当する「グローバルヘルスゼミ」などのゼミナールにも所属し、後期2年間は幅広く医学・公衆衛生学を学習できます。

大学院の修士課程では、主として日本語を使用するグローバルヘルス学位プログラム（春入学）があり、さらに2024年10月には全教科英語を使用するグローバルヘルス学位プログラム（秋入学）が開講されます。グローバルヘルスで活躍の国内外の一流の教授陣から最新の話題や対策を学ぶことができます。博士課程も同様に、主として日本語を使用する春入学コースと全教科英語を使用する



▲大学院グローバルヘルスリサーチ研究員の教員と大学院生：先生も学生も多国籍



▲グローバルヘルスリサーチ研究室はタイ王国公衆衛生省と定期的な会議を行っています



▲高齢者のフレイル予防評価を行う大学院生

秋入学コースとがあります。この秋入学コースは2025年10月からタイのマヒドン大学と本学とで博士号を同時取得できるダブルディグリー制度を開始する予定で準備を進めています。

## グローバルサウスの 高齢化に挑戦する

超高齢社会である日本は今後40年にわたり世界一の高齢化率を誇る国であり続けると予測されています。日本には高齢化対策の成功例もあれば、それ以上の失敗例も数多くあり、今後確実に高齢化問題に直面するはずのグローバルサウスの国々に役立つ知見が豊富にあります。

日本の大学や大学院で高齢化対策を学ぶという経験は、20年後にグローバルヘルスの世界が必要とする専門性を培うことになるのだと思います。

国際教養学部は設立8年目ですが、既に米国CDCやタイ公衆衛生省などに就職し、グローバルヘルスの最前線で活躍している人材も出て来ています。彼らに続き世界を目指そうとしている学生が他にも大勢います。一方、大学院グローバルヘルスリサーチ研究室はまだ設立4年目の若い教室ですが、2023年10月現在世界13カ国から72名の学生が集まっています。その半数が外国籍で、将来は母国の新興国・途上国で高齢化対策の

最前線で活躍しようと夢を描いている方々です。

私たちは、健康総合大学としての利点を生かし学内の学際チームによって、静岡県伊豆の国市で「持続可能な健康長寿のまちづくり」を展開しています。学部生や大学院生はこの現場で体験し調査研究することができます。また、私たちが行っているアジアやラテンアメリカ諸国との国際共同研究に参加することで、実践に結びつく科学的思考と方法を学ぶこともできるのです。20年後の将来、世界の高齢化に挑戦しようとする学生にふさわしい学びの環境を整えています。

ホームページリンク 順天堂大学大学院医学研究科グローバルヘルスリサーチ研究室(JUGHR)

1. <https://ghr.juntendo.ac.jp/>
2. <https://www.juntendo.ac.jp/branding/report/153/>